

(ICT 活用)

自ら考え、共に学び合う学習を目指して
―校内 ICT の効果的な活用を通して―

大阪市立大空小学校 団野 孝紀

1. 研究主題設定の理由および研究の趣旨

開校以来、「みんながつくる みんなの学校」を合言葉に、そのような学校を目指すとともに、社会を生き抜くために、「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」を「4つの力」として、誰もが、いつでも、どこでも、大切にし、高めようとしている。

4つの力の中で、特に重視しているのが「人を大切にする力」である。仲間を取り残さないように、子ども同士が支え合い、学びを進めている。しかし、コロナ禍で学習形態に制限がかかったことにより、仲間との距離がやや広がっている。制限が解けた今、もう一度、仲間との距離を縮め、「共に学び合う」ことを大切にしたいと考えている。

本校の子どもたちは、個性・特性の幅が広く、興味関心の幅も広く、学習活動に対しての意欲の持ち方にも大きな差がある。興味関心があるものは主体的に取り組めるが、そうでないものには全く意欲がわからないという子が少なくない。教職員は、子どもたちが主体的に取り組めるよう、興味関心をひき、自分の考えを持とうとするように注力しているが、非常に苦心している。しかし、昨今の国・市のICT推進施策により配備された校内ICTを用いた場面では、子どもたちの興味関心は総じて高く、意欲的に考え、取り組む姿が見られている。

以上をふまえると、自ら考えたいくなるような主体的な学びのために、子どもたちの注目を集めること、好奇心をわかせることなど、やる気になるような授業づくりの工夫が必要である。その点において、学習活動の中でICTを活用することは、より多くの子どもたちに効果があるのではと考えた。各教科・各単元の目標・ねらいに迫るために、校内ICTをいかに使えばよいかに焦点をあてて、昨年度の主題として設定した。

令和5年度は、この主題のもと、研究実践に取り組んだ。自ら考えるようにするには子どもたちが「やってみたい」と思う学習課題の設定とそう思えるような展開次第であること、共に学び合うことにより自分で考えることが難しい子どもも考えを持つことができたこと、学習者用端末やSKYTMENUの効果的な活用の仕方の理解が進んだことなどの成果があった。課題としては、子どもが「やってみたい」「考えたい」と思えるような工夫をより一層行うことや学び合う学級・授業作りの推進、教職員のICTスキル向上やICT活用効果の判断力の向上があげられる。

これらの成果を活かしながら、課題の解決を進め、より一層本研究を深めたいと思い、本年度も昨年度と同じ研究主題で研究実践を進めることにした。

2. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 自ら考える

単元・各時間において、子どもたちの学習意欲を十分に喚起して、学習課題に対して自ら考えたいくなるように工夫し、自分の考えを持って、学習課題の解決に向けて進める。

○単元の目標のもと、各時間のつながりを意識して、単元が計画されているか。

○学習課題提示を中心にして、提示前（導入）、提示、提示後（展開）の3段階で計画し、

提示前：学習課題を「考えたい」という思いが高まる導入になっているか。

提示：子どもたちが「考えたい」学習課題であるか。また、十分に理解しているか。

提示後：子どもたちが、学習課題に集中して取り組み、子どもたちの考えをもとにして、学習課題が解決されるように進められているか。

視点② 共に学び合う

子どもたちが仲間との支え合いや協働、交流などを通じて、自分の考えを形成したり、広げたり、深めたりできるようにし、子どもたちの考えで課題解決できるようにする。

○自分が考えを持ちにくいときは仲間に助けってもらったり、仲間が考えを持ちにくそうときは声をかけて寄り添ったりする学級作りを行っているか。

○ペア・トリオで考えを伝え合う、グループで学習を進める、全体交流によって考えをまとめるなど、子どもの考えで学習課題を解決しようとしているか。

視点③ 校内 ICT の効果的な活用

校内 ICT を効果的に活用し、各教科・各単元の目標・ねらいにより迫れるようにする。

○ICT を使わない場合よりも効果的な学習になっているか。

※いつ、誰が、何を、どのように。

※ICT のよさを活かしているか。

3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○各時がつながる単元計画と学習課題提示を中心にした3段階分けの学習展開によって、自ら考え学ぼうとする子どもたちが増えている。

○授業作りの型を、教職員で共有することができた。

○仲間との関わり合いにより、考えを持てる子が大きく増え、最後まで学習意欲が継続する子が増えた。

○学習者用端末での学び合いは、物理的・心理的負担が小さく、自発的に関わり合えた。

○操作や試行錯誤がしやすく、視覚的にもとらえやすく、意欲が継続する。

○協働的な学びを実現することができた。

・共同編集、他者参照など

○個別最適な学びを実現することができた。

・遠隔、アクセシビリティ、学習アプリなど

(2) 今後の課題

●既習事項の定着が十分でない。

●個に応じた学習課題が必要である。

●話す力・聞く力・話し合う力の指導が難しい。

●自己完結型の子が多い。

●ICT のさらなる活用が必要である。